

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)

宮城県教育委員会

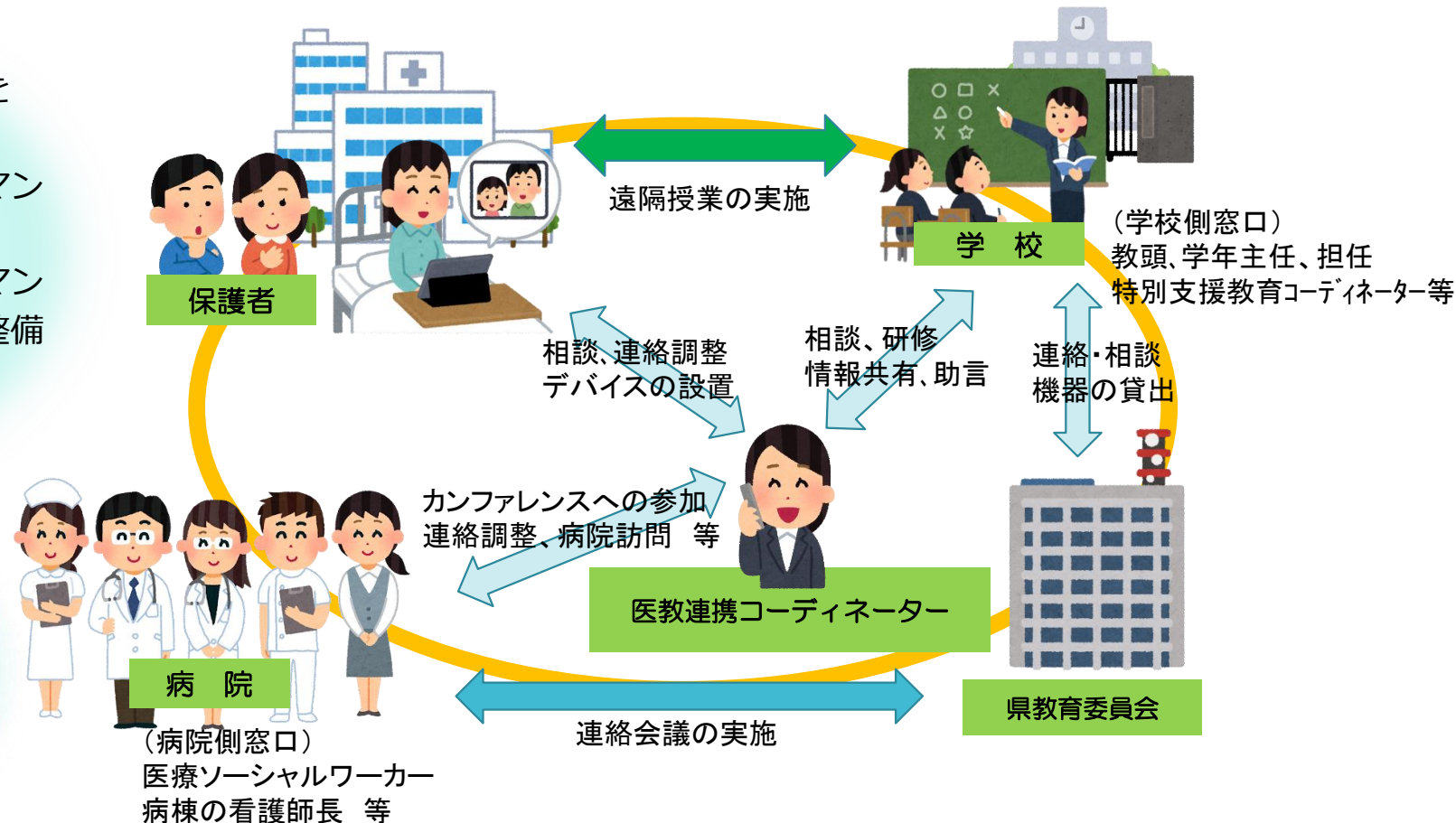
病気療養中等の生徒が治療を受けながら学業を継続できるよう、入院中や退院後の自宅療養中における教育支援の環境を整備にし、学校、医療機関及び教育委員会の関係機関が連携して、ICTを活用した効果的な遠隔教育の活用方法等を始め、教育の保障の在り方について調査研究を実施。

調査研究の内容

- 医教連携コーディネーターを活用した病院と学校の連携
- 同時双方向型授業・オンデマンド型授業に関する環境整備
- 同時双方向型授業・オンデマンド型授業に関するデバイス整備と活用
- 実態調査及び事業の周知
- 学校等への理解啓発

学習支援の実施

- Google Workspace for Education (Classroom) の活用
- テレプレゼンスロボット (kubi) の活用



宮城県では、入院中の高校生に対する教育機会を継続的に保障するため、医療機関と教育機関をつなぎ、連携をコーディネートする「**医教連携コーディネーター**」を配置。生徒が入院している病院と学校の連携、ICTを活用した学習支援を実施するための環境整備及び支援の実践を積み重ねるとともに、支援の重要性について高等学校及び病院関係者に理解啓発を図る。

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)

宮城県教育委員会

入院生徒に対する教育機会を継続的に保障していくため、医療機関と教育機関をつなぎ、連携をコーディネートする役割が必要であることから、本県では「**医教連携コーディネーター**」を配置している。医教連携コーディネーターは、対象生徒の入院している病院と学校の連携、ICTを活用した学習支援を実施するための環境整備及び支援の実践を積み重ねるとともに、支援の重要性について高等学校及び病院関係者に理解啓発を図る。

